

# 海鳴社 の新刊

8月下旬刊

7月上旬刊

帳合	帳合
冊数	冊数
<p>海鳴社 原憲之介 著</p> <p>ひっくり返る地球</p> <p>——自転軸は公転軸を目差す</p> <p>A5判並製／220頁／本体二、四〇〇円</p> <p>ISBN 978-4-87525-299-3</p>	<p>海鳴社 福士和之 著</p> <p>わかってしまう相対論</p> <p>——簡単に導ける E=mc<sup>2</sup></p> <p>46判並製／208頁／本体一、六〇〇円</p> <p>ISBN 978-4-87525-298-5</p>

## ひっくり返る地球

——自転軸は公転軸を目差す

原憲之介 著

7億年前の地球。その赤道付近で、今日水河の跡が発見されている。

この事実を説明するために二つの説が生まれた。一つは全球凍結説、そしてもう一つは、地軸大傾斜説である。

後者は力学的根拠がないとされ、これまで前者の説が有力であった。しかし、右に回っているジャイロスコープを手を持って左に自分が回る（＝公転）と、いずれコマはひっくり返って公転の方向と一致するのである！

また、微惑星が集まってできる惑星の自転の向きは理論上、公転とは逆行で誕生すると考えるのが自然である。では、なぜいま地球は逆行ではなく順行しているのか、そしてなぜ、他の惑星も順行しているものが多いのか。

厳密な理論に裏づけされた力学的説明をもって地軸の逆転を提唱する、著者の人生を賭した一冊。

8月下旬刊行予定

本体 2,400 円

## わかってしまう相対論

——簡単に導ける E=mc<sup>2</sup>

パウンダリー叢書

福士和之 著

相対論と聞いてどんなイメージを思い浮かべるだろうか。「難しい」「天才アインシュタインだから出来た」というイメージをお持ちの方も多いのではないだろうか。

しかし、特殊相対論は実際は中学レベルの数学力であっけないほど簡単に導き出せる。付け加えれば、アインシュタインが特殊相対論を発表する以前に、その基礎となる観測結果はすでにあり、理論もほぼ完成していたのだ。

本書は、特殊相対論を本格的に解説し、あの有名な E=mc<sup>2</sup> を導出する。

ついでに、一般相対論の概要に触れたり、この宇宙の結末を考えたり、4次元空間やタキオンを想像したりして遊ぶことができる。

「物理とはおもしろくて、『なぜ』を解決していけばわかってしまうものなのである。」  
(本文エピローグより) 7月上旬刊行予定  
本体 1,600 円

Fax : 03-3234-3643 <http://www.kaimeisha.com>

● 7月3日までにお返事ください。